

平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	三次市立川地小学校
-----	-----------

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- ・好き嫌いがあり，食の細い児童が各学級に数人いる。
- ・正しい食事マナー（箸の持ち方・食器の持ち方・姿勢等）が定着している児童が少ない。
- ・給食を楽しみにしている児童は多い。
- ・生活習慣の確立ができていない児童が少ない。

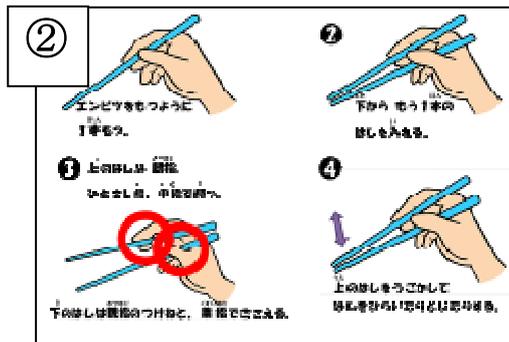
2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ・食に関する指導の目標：自らの健康を考えて行動できる児童を育成する。
- ・学校給食経営目標：目や口で学び，好き嫌いせず，楽しく食べる児童を育成する。
- ・達成目標：正しく箸を持って食べる児童の割合を 60%以上にする。

3 食育の目標に対する具体的な取組

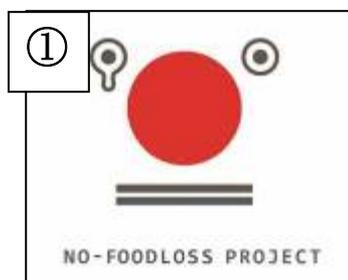
【取組 1】（テーマ） 正しい食事のマナーを身につける。

- ・効果を見取る目安：月に一度見取りをする日を決め，給食時間（12：35～12：55）に正しく箸を持って食べている児童の割合を算出する。
- ・具体的な取組①：3年生の学級活動で，食事のマナーについて指導し，レベルに合わせて箸つかみゲームを行った。（給食時間を中心に全体指導も行った。）
- ・具体的な取組②：給食時間を通して，ランチルームの各机の上に正しい箸の持ち方の図を置き，食べながら正しい箸の持ち方を学べるようにした。また，栄養教諭が週毎に各学年に入って指導を行い，担任と連携して評価を行うとともに，児童の意識を向上させるため「給食がんばりカード」に目標を書かせ，振り返りを行わせた。
- ・具体的な取組③：家庭でも取組めるよう，給食だよりや給食試食会を通して啓発を行った。給食試食会では，本校の食育の取組や今年度の食育目標等を説明し，箸の矯正グッズなどを紹介した。



【取組2】(テーマ) 食事の重要性、食事の喜びや楽しさを理解し、感謝する心を育成する。

- ・全校朝会やランチルーム内の掲示物を通して、食事の重要性、食事の喜びや楽しさ、感謝する心を育成させる学習をさせた。
- ・具体的な取組①：全校朝会において、食べ物の大切さについてや残さず食べるにはどのようにすれば良いのか学習をさせた。また、残さず給食を食べよう、農林水産省が作成した食品ロス削減国民運動ロゴマークである「ろすのん」をランチルームに掲示し、啓発を行った。
- ・具体的な取組②：ランチルームにおいて、給食の歴史、和食や朝食についての掲示をし、給食時間に啓発を行った。家庭でも食についての話ができるよう、同じ内容を給食だよりに取り入れた。
- ・具体的な取組③：学区の小学校において、野菜のはたらきや特徴を三感（目・鼻・手）で体感し、野菜に興味・関心をもたせる学習をさせた。



【取組3】(テーマ) 心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身につける。

- ・献立作りを通して、心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を学習させた。
- ・具体的な取組①：6年生家庭科「バランスのよいこんだてを考えよう」の単元では、6年生が3班に分かれて給食1食分の献立を考えた。考案した献立を給食に取り入れ、振り返りを行った。また、中学校で活かせるよう、野菜の切り方・調味料の重量の見方等を書いた給食思い出集を提供した。
- ・具体的な取組②：学区の中学校において、かぜ予防をテーマとしたバランスのよい弁当作りについて学習させた。また、弁当作りを取掛りやすくするため、簡単なレシピの工程をパワーポイントで紹介をした。



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- ・広島食育ウィークには、三次市版ひろしま給食統一メニューを給食で実施した。その際、三次市では「三次市食育だより」を作成・配付し、「ひろしま給食」と三次市で生産されている「米粉麺」について紹介した。
- ・家庭には、レシピを配付するとともに給食だよりで「ひろしま給食」について啓発した。
- ・様々な年度の「ひろしま給食」の献立を取り入れ、給食メモを通して紹介した。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

- ・正しく箸を持って食べる児童の割合は、年度当初は51%、2月時点での達成値は74%であった。正しい箸の持ち方のイラストを用いた給食時間中の声掛けや、振り返りシートの成果があったと考えられる。振り返りシートには、「友達が上手に持って食べているからがんばりたい。」「えんぴつの持ち方も意識しようと思った。」などの記載があり、意識変容が見られた。
- ・全校朝会での話や、掲示物等により、今まで完食できなかった学年が完食できるようになった。
- ・学区の小学校、中学校で授業に関わることができた。小学校では、学習後、全員苦手な野菜を食べられるようになった。また、料理の手伝いをする児童が増えたことから意識変容が見られた。中学校では、授業で紹介した献立を弁当に取り入れている生徒や、どのような食材がかぜ予防に良いのか等調べる生徒が増えた。

【課題】

- ・正しく箸を持って食べる児童の割合は目標を達成しており、意識している児童が多いが、ほとんどの児童が継続できていない。また、姿勢が悪い児童や食器を持って食べていない児童が多数いる。
- ・今年度は教科につなげる指導ができなかった。年度当初に各学年の担任と連携を取っておく必要があった。
- ・朝食を食べて来ている児童は89.8%と高いが、主食・主菜・副菜のとれていない児童は41.7%であり、朝食の内容に課題がある。また、朝食内容に課題がある児童は給食でも好き嫌いが多く、食べる量も少ない傾向が見られる。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・正しい食事のマナーが定着していない児童へは、給食時間を中心に引き続き個別指導を実施する。
- ・授業や給食時間の声掛けを通して、箸の持ち方や姿勢など食事のマナーについて積極的に指導を行う。
- ・今後も、給食試食会で食育について家庭へ啓発するとともに、給食だよりで定期的に情報発信をする。
- ・食に関する指導を充実させるために、「〇月には食事のマナーの話を〇学年で実施する」等、具体的な年間計画を立てて実践していく。また、年度当初に年間計画内容を全体へ周知するとともに、学級担任と連携を密にし、計画した授業が実践できるようにスケジュールの調整や授業準備に努める。